

Ohmi Net

あうみネット

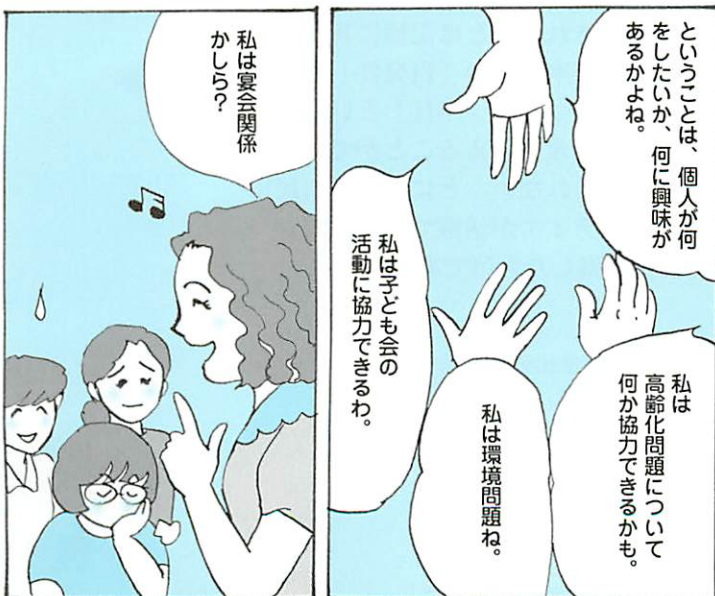
あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人をつなぐ♥ 作 杉尾尚子

ネットストーリー

新しいまちづくり 編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～<第2回>

ボランティアって奉仕のこと

市民&企業&行政ネット
め・と・て・とねっと
 株式会社 日吉
 ゴミ問題からアジアの環境、
 未来の環境までグローバルに活動

あうみネット **リレーエッセイ**

●トピックス

新しいまちづくりの動き

●スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- 脳卒中友の会『淡海の会』
- はじめの一步
- アトリエ「環琵琶湖」

伝言板 7月・8月

●センターインフォメーション

- ・わくわく市民活動
ゼミナールのご案内
- ・あうみ市民活動屋台村
企画提案募集!!
ほか

July
No. 24
 2001・7

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第2回 ボランティアって奉仕のこと

NPO、市民活動という言葉と同様、ボランティアという言葉も氾濫している。これは何もボランティアを否定しようと言っているのではなく、それほどボランティアが日本社会に定着していて、ボランティアは社会にとって重要な存在だと言いたいからに他ならない。

これまで何となくマニアックな世界にあったボランティアが世間の注目を浴びたのは、阪神・淡路大震災だった。震災という不幸な状況下でのボランティアの活躍がきっかけで、誰もがボランティア活動をしやすくなり、NPO法もできたわけである。

では、一般にボランティアという言葉はどのように捉えられているのだろうか。ボランティアの定義は、小谷直道さんによると「個人の自発的な意思に基づいて、その労力、時間、金品などを進んで社会に提供し、直接的な対価を求めず、社会の一員としての役割を果たす人」ということになるが、ボランティアにはその行為、すなわちボランティア活動を含めた言葉として使われることもある。この定義では、ボランティアの「自発性」が強調されているが、これまで日本での一般的なボランティアのイメージはというと、「ただ働き」、「奉仕者」であった。

そこで思い起こされるのが、昨年、教育国民会議が提唱した「奉仕活動の義務化」である。賛成反対の論議が活発に展開されたことは記憶に新しいが、この「奉仕活動」には、ボランティア活動が本来持つ「自発性」という意味合いが感じられない。ただ、死語になりつつある「奉仕」という言葉をきっかけに、ボランティア活動の今日的な意義を考えることができたのは、逆説的だが喜ばしいことではあったかもしれない。とにかく、市民が主体的に関わる市民活動・NPOは、ボランティアが活躍でき、ボランティア活動が活発に行われる最良の場だと再認識した次第である。

(市民熟人)

参考文献 市民活動時代のボランティア (小谷直道著、中央法規出版、1999年)
ボランティアの考え方 (秦辰也著、岩波ジュニア新書、1999年)
ボランティア活動入門 (野上芳彦、柏樹社、1974年)

めとてとねっと

市民&企業&行政ねっと

アジアの環境から未来の環境まで
グローバルに活動

株式会社 日吉



お話を伺った総務部長の
三谷豊さん。

日吉は1955年に創業。し尿、ゴミなど都市環境の保全からスタート、上下水道の施設管理、基礎工業薬品の製造販売、超微量化学物質や遺伝子組替食品の分析、ダイオキシン等のバイオアッセイ分析に取り組むなど、総合環境保全企業として幅広い分野で活躍しています。

「今や環境問題は、地球温暖化現象にみられるように、水や空気の汚染にしてもはや一つの国だけで解決できる問題ではない。環境問題に国境はないからだ。」

1989年より滋賀県やAOTS(海外技術者研修協会)、AIESEC(国際経済商学生協会)などを通じて、中国湖南省、インドなどアジアを中心とした技術研修生の受入に熱心なのもそんな想いからです。研修生たちには環境技術の最前線で学ぶことができ、即実践に役立つと好評です。さらに当事国で開催される環境セミナーに講師



受入国はインド・パキスタンなど8ヶ国。延べ40人。

として参加するなど、その後の支援にも積極的に取り組んでいます。特に、インドとの交流は深く、毎年現地のAOTS同窓会が主催する環境をテーマにした弁論大会に協賛、優勝者を日本に招待し環境問題を学んでもらっています。

環境問題は今に生きる我々はもちろん、次の時代を生きる子供たちにこそ切実な問題です。それゆえ、子供たちへの環境教育にも力



子どもが変われば親も変わる。その役割は大きい。

を入れているのです。小学生から募集した絵を大きくペイントしたパッカー車が街中を走り、要請があれば、学校に出かけて行き、子供たちとゴミやリサイクルの問題を話し合います。それは子供たちを通じ、それぞれの家庭にも広がっていきます。学校に限らず、県内外のグループや団体から環境学習の依頼が舞い込むのも、そのような活動の成果でしょう。「国際交流」と「環境教育」をキーワードにすすめる、同社の社会貢献活動は、人と人、国と国との未来への掛け橋として、その社会的意義はますます大きくなることでしょう。

株式会社 日吉 近江八幡市北之庄町908番地
TEL.0748-32-5111 FAX.0748-32-3339 <http://www.hiyoshi-es.co.jp>

輝く高齢者との出会い

心をむすんで*
リレーエッセイ

は私だけではなさそうである。

エルダールホステル琵琶湖講座は、琵琶湖を舞台に一泊ないし二泊で、現地集合し、高齢者に旅と学習と出会いを提供するプログラムである。募集をすると、全国から応募があり、直ちにキャンセル待ちとなる。このセンターとなるエルダールホステル協会は、世界にネットワークを持ち、海外講座や日本学講座を開催している。現在、特定非営利活動法人の認証を受け、全国に会員がいる。琵琶湖講座のスタッフは、戦国期の近江を専門とする大学教授やホテル支配人、公務員など8名であるが、この活動の魅力は自らも、滋賀の再発見ができ、さらには、参加者の若さや向学心に触れ、その生き方にも大いに刺激を受けつつ、本当に楽しみながら活動できることである。毎回、草津はもちろん彦根や近江八幡など、まちづくりで燃える人たちに企画面等で無理をお願いしているが、いずれ参加者のように輝く高齢者になりたいと感じているのは私だけではない。



エルダールホステル琵琶湖講座コーディネーター
林田久充

次回はまちづくり役場の
山崎弘子さんです。

新しいまちづくりの動き

コミュニティを基盤としながら、これまでにない新しいまちづくりの動きが芽生えています。こうした新しい動きを通じて、これからのコミュニティをベースとする自主・自立的なまちづくりを展望します。

自治の五重奏

「まち」とは、「一定の土地空間」と「人間集団」という概念であり、「まちづくり」とは、「そのまちにかかわって生きる者たちが、まちの質・量を維持・向上・発展させていく不断の行為」（織田直文「文化政策入門」）を意味し、従来は、地縁コミュニティである自治会・町内会がその役割の多くを担っていました。しかし、人々の価値観の多様化や少子高齢化の進展による社会構造の変化などに伴い、従来型地縁コミュニティの崩壊や地縁コミュニティだけでは対応できない課題が数多く出てきています。

滋賀県では、これまでから「草の根まちづくり」による自治会等の支援を行ってきました。自治会支援を県が行うことに対しては

非はありませんが、その支援を契機に、自治会とエリアを同じくしながらも、従来型の自治会・町内会等とは異なった、自主的なまちづくり委員会などの動きが生まれてきました。

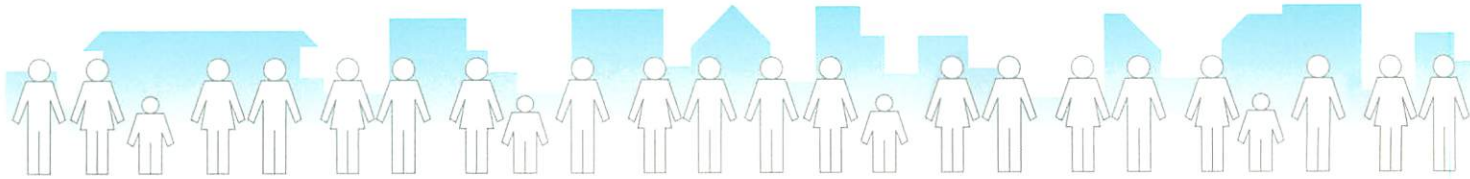
県ではポスト草の根まちづくりが大きな課題となり、現在、地方分権の動きの中で、「自立と協働」を基調とした新しい自治の形づくりとして、(1)自治会、町内会(2)小学校区(3)市町村(4)県(5)NPOの5つがそれぞれの機能を発揮し、ハーモニーを奏できるように響き合って厚みのある自治を創造していく「自治の五重奏」を提唱しています。

県民のいばき

八日市市では、今年度から「八日市元気なまちづくり推進事業」が実施されます。これまで自治会を中心に取り組まれてきた地域の

様々な課題に対し、市内8カ所の公民館をエリアとする「まちづくり委員会」が実施主体になって、市の支援のもと、活動を進めてもおうとするものです。「まちづくり委員会」は、市民の有志により立ち上げ、自治会のほか、個人やグループ、ボランティア団体などと連携し、地域の自主的なまちづくりをめざしています。この事業はまだ始まったばかりですが、今後の取り組みが注目されます。

また草津市でも、学区を単位としてまちづくり協議会を作り、広域的な地域の課題解決や将来構想の推進を図っていくという動きや、学校を拠点として「子どもと大人の協働」を進める「地域協働合校(がっこう)事業」が展開されています。



県外先進地の取組み

① 豊中市まちづくり条例

豊中市では、市民自らが身の回りの環境をよくするために関わりを持つとするとときの自発的な活動を支援し、市民と行政が協力してまちづくりを進めるため「豊中市まちづくり条例」を1992年に策定しました。

まちづくり条例は①基本姿勢②活動の支援③地区計画制度などのまちづくり制度の活用からなり、まちづくりの初期期における支援などが盛り込まれています。

市民が協力して、地域のまちづくり活動を進める組織として「まちづくり協議会」があります。豊中市のまちづくり協議会の特徴は、学区や公民館というエリア単位につくられるのではなく、地域の問題や課題の解決に向けて、身近な仲間、有志が集まりつくられるところにあります。「まちづくり協議会」として市から認定を受けると、活動費の一部助成を受けることができます。そして、自分たちの研究・検討結果を「まちづくり構想」としてとりまとめ、市に提案し、行政と市民とが構想の実現に向けて共同で取り組みます。

② 宝塚市まちづくり協議会

宝塚市では、自治会、小学校区単位のまちづくり協議会、ブロック別連絡協議会という3

層ネットワークによるまちづくりに取り組んでいます。

自治会は地域の最も身近で基礎的な住民団体として、相互扶助的な活動を主体としたコミュニティ活動の基本的な部分を担っています。しかし、近年の急速な社会の変化に伴い、複雑化した地域課題に対応していくには、より広い地域での共同や他の活動団体・グループとの連携が必要となっています。そこで、地域のあらゆる人が一体となり、意見を出し合い、力をひとつにして課題に取り組んでいくため、誰もが参加できる距離、おおむね小学校区を単位として、自治会を中核としながらも、地域で活躍する人たちとの連携を図る自主・自立の組織が宝塚市の「まちづくり協議会」です。

まちづくり協議会への加入は個人単位で、誰もが参加できます。協議会の中では、個人やグループ、ボランティアの活動がいろいろ行われており、社会福祉協議会や学校PTAとの連携もとられ、活動の広がりや多様性を生み出しています。行政もまちづくり協議会の活動拠点として学校の空き教室を提供したり、協議会で学区単位のまちづくり計画を行政に提案し、行政がその計画を施策に反映させていく、といった住民と行政の新たな関係も生まれています。また、各協議会とNPOが協力してエコマナー「ZUKA」の実験を行う動きも生まれています。

ま と め

「まちづくり」は時代とともに変化しています。これまで地域の自治組織としての自治会・町内会が地域課題の解決に大きな役割を担ってきたのは、紛れもない事実です。しかし、現代の課題は自治会だけで解決できるものは少なく、またこれまでとは違うオープンな自治会運営が求められています。八日市市や宝塚市で取り組まれている「まちづくり委員会」「まちづくり協議会」は、これまでの自治会活動を補い、これからのコミュニティ像を考える新しい取組みといえます。こうした活動には、より広い範囲の様々な人々の関わり、協力が必要です。ボランティア活動やNPOに参加する人など、積極的に自ら社会に関わり、課題の解決に取り組んでいこうとする人たちが、どのように「まちづくり協議会」などの新しいまちづくり組織に参加していくのかが注目されます。



宝塚市まちづくり協議会の広報

私たちががんばっています！

NPO

どういふふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

スポーツも旅行も、みんなで活動することが、私たちにとってはリハビリなんです。

●脳卒中友の会『淡海の会』

滋賀県脳卒中友の会「淡海の会」

代表：清水 享さん
連絡先：大津市黒津2-20-8
電話・FAX：077-546-1366
設立：1998年
会員：130人



●代表の清水享さん

脳卒中は、脳内出血や脳梗塞、くも膜下出血など脳血管障害を総称したものです。医学の進歩で救命される確率は向上しましたが、右半身、あるいは左半身のマヒという後遺症が残るようになり、でも私たちの体はたとえ一本の血管がだめになっても、近くの血管がそれをおぎなおうとします。だから病後のリハビリテーションはとて重要ですが、根気よく続けないと効果が上がらないので、退院後リハビリをやめてしまったら、家の中にこもってしまう人も多いようです。

会長の清水さんも、突然発病しマヒが残り、悶々と過ごす中で奈良に「脳卒中の会」があることを知り、調べてみると滋賀県にはなく、患者やその家族が互いに支え合い励まし合うということの重要性を感じて、自

ら会を立ち上げることにしました。「 Mottoーは「外に出よう」「挑戦しよう」なんです。障害を持つと家にこもりがちになりますが、不自由でも外に出て活動することがリハビリになるんですね」。平成10年の5月に発足、現在会員は130人。近畿、全国の脳卒中友の会とも交流し、グラウンドゴルフや卓球、フリーマーケットや国内旅行など様々な活動を通じて、リハビリやお互いの情報交換など連帯を図っています。

健常者や他の障害を持つ人との心の



●年8回発行の淡海の会の会報誌と会員募集のパムフレット

バリアフリー、生活する上での施設やシステムのバリアフリーなど「障害を持つ立場に立って初めて様々なことを知りましたね」と清水さん。脳卒中は生活習慣病のひとつ。ストレスを抱える現代人には身近な病気です。「まだまだ会員は県内の患者さんのごく一部です。後遺症で悩む方たちに仲間が



●大阪脳卒中友の会の運動会に参加したメンバーと家族

いることを知って欲しいですね」
（編集ボランティアー 松井由美子）

S P O T L I G H T

「わたしがくぐり生きる」ための「一歩」を

●はじめの一歩

今、社会問題となっているDV（ドメスティック・バイオレンス）※（注）。3人に1人の女性がDVに遭い（東京都の調査）、成人女性の20人に1人が「生命の危険を感じる」（総理府調査）実態。警察や行政に助けを求めても取り合ってもらえなかった経験を宇野さん自身肌で感じている。同じ思いの女性の悩みや経験を打ち明けながら前向きに生きていこうとする会「はじめの一歩」を2年前に発足。メンバーは20代〜40代、離婚調停中や元シングルの人などさまざま、全国から、メールや電話での問合せも数多くあります。子どもたちの成長に合わせて、動物園や公園での親子交流会、子育ての悩みや情報交換を中心に支え合う活動をしてきました。

代表の宇野さんは「友達と普通に話せなくなったり、求職の時に離婚を隠してしまおう自分がある。悪いことをしたとは思っていないのに、世間のイメージを強く意識している。自分の中にあるバリアに気づいたんです。今度は、自分の生き方との戦いです」と話されます。

この内なるバリアを打ち破るために、シングル以外の人たちとの交流の場を積極的に企画したり、ホットライ

「はじめの一歩」

代表：宇野勝美さん
携帯電話：090-7105-7787
設立：1999年
会員：10人



●「はじめの一歩」の会報誌。この会報誌への思いや、シングルママの悩み、メンバー募集で構成されている。



●代表の宇野勝美さん

ンの開設や情報紙の発行など、メンバーの仕事や持ち味を生かしながら、「自分たちから発信していく活動」と「二歩目」をスタートしたところです。

「今後は、心療内科の医師や弁護士など専門家の方々の協力も得て、活動の幅を広げたい。民間のシエルトアづくりや雇用を生み出す仕事づくりもできたら最高！」と自分らしく生きることへの自信、支え合う仲間がいることへの揺るぎない信頼と確信が宇野さんの笑顔からははじけていました。

※DV…夫や恋人など親しい間柄の男性から女性にふるわれる暴力
(編集ボランティア 石田和子)



●「地域独特の造形を大切にすべき」と語る代表の森雅敏さん

アトリエ

「環琵琶湖」は、浅井町鍛冶屋の廃屋に手が加えられ、今から4年前に誕生しました。自然あふれる湖北の地に代表者の森雅敏さんたちは文化の種を蒔きました。静かに始まった活動も、今では琵琶湖の周りで活躍する芸術家たちに広まり育ってきています。庭の作品、土蔵の常設ギャラリー、数々の企画展示、地域のくらしを通信で紹介など。その思いは様々な表現により私たちに語りかけます。

思いもよらない方向へ行くこともあります。芸術が、人の目を引く集客目的の観光化と、お金儲けの道具として商業化の方向に進んでしまうこともあります。

「この地にいるとよくわかるんです。本当に大切なものが見えてきます。そこに住む人のその空間や時間、そんな

琵琶湖とともに生き、そしてその環境への
こだわりから生まれた芸術活動



●浅井町の豊かな自然に抱かれたアトリエ「環琵琶湖」

アトリエ「環琵琶湖」

代表：森雅敏さん
連絡先：東浅井郡浅井町鍛冶屋741
電話・FAX：0749-76-1343
設立：1995年
会員：30人

あたり前が素晴らしいことが……。そして文化は人を育てるということが……。だから琵琶湖というランドマークを持つ私たちは、琵琶湖とともに生きていくという意識、そしてその環境にこだわり、思考していかなくてはならないと思うのです」

必要なものが必要なだけ、それ以上、それ以下も存在しない。商業的ではない地域文化に根ざしたアトリエ「環琵琶湖」の精神。

かつてその昔、ヨーロッパの地方に根付いて育った芸術「エコール・ド・パリ」それは未来のアトリエ「環琵琶湖」の姿でありたいと夢を語ってくれました。

(編集ボランティア 山川佳代子)

●アトリエ「環琵琶湖」

わくわく市民活動ゼミナールのご案内

今年度のわくわく市民活動ゼミナールの日程と内容が決まりました。市民活動に関心のある方なら、どなたでも参加できます。受講定員は申込順で50人です。受講料500円(1回) 受講を希望される方は、センターまでお申し込みください。

◆第1回「NPOがつながる学校と企業」

講師：小川雅由さん
(こども環境活動支援協会事務局長)
日時：7月6日(金) 午後7時～9時
場所：ウイングパレスくさつ大会議室1・2
草津市西大路町9-6

◆第2回「環境保全活動を通じた市民・行政・企業・マスコミ・市民団体のパートナーシップ(仮題)」

講師：萩原喜之さん
(NPO法人中部リサイクル市民運動の会代表理事)
日時：7月26日(木) 午後7時～9時
場所：県立女性センター研修室B・C
近江八幡市鷹飼町80-4

◆第3回「コミュニティでのしごとづくり(仮題)」

講師：中村順子さん
(NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸)
日時：8月9日(木) 午後7時～9時
場所：つがやま荘ロイヤルホール
守山市浮気町300-24

◆第4回「ワークショップ 活動を広げるための広報紙づくり」

講師：赤須治郎さん(赤須企画事務所)
日時：9月1日(土) 午後1時～5時
場所：彦根勤労福祉会館たちばな大ホール
彦根市大東町4-28

◆第5回「昇る夕日でまちづくり～住民と役場が一緒になって～(仮題)」

講師：若松進一さん(愛媛県双海町地域振興課長)
日時：9月7日(金) 午後7時～9時
場所：滋賀県立県民交流センター305会議室
(ピアザ淡海)
大津市打出浜1-1-20

おうみ市民活動屋台村企画提案募集！！

今年も9月29日(土)、30日(日)2日間にわたり、滋賀県立県民交流センター(ピアザ淡海内)を会場に、「おうみ市民活動屋台村」を開催します。このイベントをよりよいものにするため、みなさんのアイデアをお待ちしています。

●募集内容：「おうみ市民活動屋台村」での企画提案。講演、フォーラム、展示、実演、体験、発表、ワークショップ、コンサートなど、取り上げてほしい企画や自分たちで取り組みたい企画内容。

●応募方法：所定の企画提案書様式に記入し、FAXまたは郵便にてお送りください。Eメールでも受け付けます。様式に従って必要事項を入力し、下記アドレスにご送付ください。

なお、企画提案書はセンターへ連絡いただくか、またはセンターのホームページからも入手できます。

●応募期限：7月8日(日) 必着
※企画の採否は実行委員会で決定のうえ、応募者に通知します。

「第15回地域づくり団体全国研修交流会 滋賀大会」開催のお知らせ

テーマ：「母なるびわ湖からのメッセージ～パートナーシップで拓く新世紀～」

県内の地域づくりの活動を全国に発信し、県内外の団体の活動を知り、交流を深め合う絶好の機会です。地域づくりに関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。

(参加にあたっては事前の申し込みが必要です)

日時：8月30日(木)、31日(金)の2日間

場所：大津市内(全体会・分科会)ほか、
県内各地(現地分科会)

参加費：7,000円

申込期限：7月13日(金) 必着

問合せ先：滋賀県企画県民部県民文化課
県民活動推進担当

TEL 077 (528) 3411

FAX 077 (528) 4840

※開催要領は滋賀県のホームページにも掲載されています。

(<http://www.pref.shiga.jp/c/kemmin-s/new.html>)

申込み先：淡海ネットワークセンター



編集後記

シングル歴10年。孤独と不安、世間と自分との戦い。終わりのないのが「自分との戦い」。自分と向き合うことで、すいぶん「わたし」をすきになった気がする。悪いところも弱いところも愛しく思えてきた。「いいかげん」ではなく、「よいかげん」で物事を捉える余裕・楽しみも感じることができるようになった。つらいできごと、暖かな出会いなど、それぞれに渡しの「心の襲」を豊かにしてくれているようだ。

(編集ボランティア・石田)

「こうやってみなさんに話を聞いていただくのも自分自身のリハビリなんですよ」という会長の清水さん。障害者になって「異次元」にいる自分を感したと言います。誰もがいつ陥るかも知れない「異次元」の世界、この国の福祉はまだ健常者の世界に留まっているようです。ボランティアなど心優しい人が多くいることも知り、とても勉強になりました。

(編集ボランティア・松井)

その時々、自分自身の中で変わっていくこと、変わらないもの。それは？

人はいつも原点に帰る旅を繰り返します。アトリエ「環琵琶湖」さんの取材はとてもし有意義なものでした。心の原郷を教えてくださいのような……。

(編集ボランティア・山川)

今年4月、センター職員に仲間入りしました。長い公務員生活の中で初めて県民のみなさんと直に接する機会に恵まれました。市民活動団体、NPO、ボランティア…。日ごと机の上にはうすたかく積まれる情報の中に、何とこれら使命感に燃えたニューリーダーの活躍が多いことか。信念と実行力を兼ね備えた新しい時代のリーダーの台頭は時代の要請でもあるはず。言葉ではわかっていても何となく自分とは縁遠い存在のように思っていた新しい流れの中に突然身を置くことになり、少々戸惑いを感じながらも、新しい発見の毎日です。折角得た機会です。ともあれ、皆さん方との交流を通じて、まずは地道にキャッチアップに努めたいと考えていますので、よろしく願います。

(事務局・苗村)

今回の号はいかがでしたか? 「おうみネット」への皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。

センターでエフエム滋賀の公開生放送予定!

タイトルは
「おでかけ湖岸通り77番地inピアザ淡海」。
お時間のある方はぜひ、センターまで
お越し下さい。

日時：8月17日(金)
午前7時30分～午後3時
場所：ピアザ淡海2階

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
■<http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net>
■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
各県事務所、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、女性センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社福祉ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さきさきホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など

